

人妻たちの森林カ フェ ゆったりと くつろいだ後は・・・

そのログハウスは数年前にサラリーマンから中途転向した若い男性によって森林の中に作られた。

田園地帯で近くに牧場などもある、良い
雰囲気のカフェである。

.....カフェの木の家屋。

午後三時、ドアの上に取りつけられた小
さなベルが鳴る。

チリンッ・・・・・・・・！

「こんにちはっっ！！！」

一人の人妻が入ってきた。店主と朗らかに挨拶・・・・・・・・。

ひざ丈のグレーのスカートはムッチム
チの太ももに密着している。

中にはスカートと同じグレーのパンツ。

胸元は大きな乳房でピッチピチ……。

大き目のTシャツなのにおっぱいが少し気になって右手でさすって触っているがとても重たそうだ。

彼女に引き続いて後ろからもう一人・・・・・・同じように笑顔で男性店主と挨拶をしている。常連のようである。

二人目の彼女は小さな猫を連れてい
る・・・・・・・・。

・・・・・・・・。

「昨晚も・・・・・・・・旦那とのセックス凄か
ったですわ」

忙しそうにカフェ店内へ。

二人とも下着は黒・・・。

店内はいつも通りゆったりした空気。

カウンターでは紅茶などがコップに注がれ、店カウンター内の木の台の上のテレビでは昼間の番組が流れている。

「ちょっと立ち寄ってのんびり休憩に来ましたの……」

そう言ってカウンターに座った人妻二

人は太ももの出たスカートの足を組み変えた。

人妻二人は近くの街のご近所さんである。

・・・ふとテレビ番組に目をやる。

ぼんやりと目をやる。

そしてジーンズの太もも部、股間辺りを
そっとさする。

「今晚も夜が待ってるわね」

少し太ももの角度をカウンター椅子に

座って直す女子二人。

さりげなくアイコンタクトを交わす。

昨晚の凄さを思い出していた。

二人は・・・・・・最近親しくなったばかり。

・・・・・・一気に・・・・とある夜を境にして親密になった。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)